「ＪＴの森積丹」春の森林保全活動

新貝ＪＴ副社長・鶴田湯前（ゆのまえ）町長が来町

1．鶴田湯前町長（左）と松井町長がタオルを交換

2．初来町の新貝康司ＪＴ代表取締役副社長

3．恒例となった「森の課外教室」

4．参加者同士が協力して行ったカラマツの除伐作業

第9回目の森林保全活動

6月6日に平成23年6月の初開催から第9回目となる日本たばこ産業株式会社（以下「ＪＴ」）と協働で「ＪＴの森積丹2015春」森林保全活動が開催され、新貝康司（しんがいやすし）代表取締役副社長をはじめとしたＪＴ社員の皆さんのほか、町内外から約200名が参加しました。また、同じくＪＴの森活動を行っている熊本県湯前町から鶴田正巳（つるたまさみ）町長も視察に訪れ、松井町長と全国9カ所でそれぞれデザインの異なる「ＪＴの森記念タオル」の交換式を行いました。

今回は、昨年の余別川流域エリアでの初開催の際、荒天により実施できなかったサクラマスサンクチュアリーセンター周辺のカラマツ林で樹木の生長を促す除伐作業を行い、参加者は後志総合振興局森林室職員の指導のもと、成長の悪い木を選定し、倒れる方向を慎重に見定めながら木を切り倒し、大きな音を立てて倒れる木の迫力に思わず歓声を上げていました。

午後からは恒例の河村博環境生態系保全技術アドバイザーによる「森の課外教室」が行われ、参加者は余別川周辺の森・川・海のつながりと、自然環境保護の取組に理解を深めたほか、森林体験活動として、サンクチュアリーセンターに隣接する「げんきの森」を散策するクイズラリーも行われ、20問中15問以上の正解者には実行委員会から表彰状が贈られました。

また、昼食では商工会女性部より、積丹の海の幸が贅沢に使用された浜鍋が振る舞われ、おかわりが続出する盛況ぶりでした。

この「森林保全活動」を、今後もＪＴの皆さんをはじめ、地域や関係機関の皆さんにご協力をいただきながら推進し、「ＪＴの森積丹」のテーマ『海を育む水源の森』の実現に向け、取組を進めていきます。

余別川　水産資源保護法による保護水面として通年水産動物の採捕が禁止されており、河川改修や河川周辺での農地利用の歴史も無い原始に近い河川環境を今も保つ河川。その貴重な河川環境から、現在、北海道大学水産学部や小樽商科大学商学部などから研究対象とされている。

第24回 YOSAKOIソーラン祭り

北と南の絆、更に固く！

合同チームが迫力の演舞を披露

６月13日、14日の２日間、２７０チームが参加し、今年も大盛況となった「第24回ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭り」に今年も姉妹都市の高知県香美市との合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町＆香美市」を結成し、参加しました。

積丹町の１歳から80歳までの43名と香美市からの29名の計72名がソーラン節と鳴子の乾いた音を札幌市内の５会場で響かせ、両市町の交流の健在をアピールしました。

また、今回は今田博明香美市副市長を団長とし、石川彰宏同市議会議長など訪問団８名が来町され、両市町の友情と更なる交流の発展を確かめ合いました。

来年は、ソーラン節のふるさと・積丹町と、よさこい鳴子踊りの本場・高知県香美市が出会い、交流が始まってから25周年を迎えます。同市との姉妹都市交流が、今後ますます発展するよう、両市町民の交流の輪を更に広めていきましょう。